

長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

令和2年4月29日(祝) 第95号

1 益はなくても 意味はある



今年度、開校35年目の諏訪市立諏訪南中学校

今年も新年度がスタートしました。私・太田は平成元年の採用ですので、今年で教職32年目となります。平成元年4月から新卒の6年間お世話になったのが、上の写真の諏訪市立諏訪南中学校です。毎年2月には当時の先生方と、当時の校長先生である宮坂昭吉先生を囲んで「おりおり会」(校長先生が職員会の度に出ていた通信「おりおりに」にちなんで、この名前になっています。)という会をやっています。もう20年近く続いているでしょうか。この会では何年経っても私が一番年下ですので、私はいつでも新卒扱いで、「太田さん、ちゃんとやってるか?」なんて言われてしまいます。(笑)

そう言われるのも無理はありません。新卒時代の私は、宮坂校長先生から「太田さんはそもそも謙虚さが足りない。」とか「太田さんはよくついてない(アンラッキー)だというけれど、そうじゃない。足が地に着いてない(アンステディー)んだ。」とか、校長室に呼ばれてよく叱られました。そんな私でしたが、鍵山相談役に出会い、掃除道に取り組むようになってしばらくたった頃だったと思いますが、宮坂校長先生から「太田さん、いい顔になってきたなあ。」と言われるようになりました。新卒時代はほとんどほめられた覚えはないのですが、歳を重ねて校長先生にほめられるようになった自分は、「あの頃より少しは成長できたのかな…」と思う次第です。そんなことを言うと、また「謙虚さが足りない」と叱られたりして…。

昨年の2月の会でのことです。宮坂校長先生から、「太田さんのやっている掃除って、こういうことずら(げら)は、諏訪地方の方言で「でしょ!」と一枚の紙を見せられました。それは、校長先生がまだ若いころに子どもたちとトイレ掃除に取り組んだときのことをふり返って、諏訪の地元紙に寄稿したときの原稿でした。昭和四十年代のことだそうです。便教会ができる何十年も前に、こういう先生が我が信州においてだったということを皆さんにお伝えしたく、ご紹介いたします。

トイレが輝いてきたぞ ~便器を磨くことは 心を磨くこと~

諏訪市立諏訪南中学校 元校長・宮坂 昭吉

長野の小学校に居た頃のことです。まだ木造校舎で、トイレたるや何十年もの汚れがこびりついていて、黄褐色の厚い層っていました。私の受け持っていたクラスが便所当番になり、「こんな姿が学校の中にあるようでは教育はない」なんて考えて「ようしやるか!」と取り組んでみました。

塩素系の薬品をかけ、白煙や強烈な臭いと闘ってみたが、きれいになるなんてものではありません。砂をつけてこすってもみました。ナイフで削ってもみました。最後に思いついたのが茶わんのかけらです。これはよかったです。鉢をかけるように汚れが剥がってきて、本来の白い陶器の面が見えてきました。

子どもたちは喜びました。2~3人で一個の便器を受け持って、放課後まで使って夢中になる始末です。そのうちに真っ白な便器が出てきました。もう感動です。涙ぐんで見入る子どもさえいました。先生たちも感動しておりました。しかし、何といっても最高の感動を肌に感じたのは子どもたちだったと思います。

体に汗して、悪臭や吐き気をもよおすような汚れと闘ってきた者でなければ味わうことのできない尊い経験だったと思います。「先生、手でさわれるよ」と言った言葉には、便器を磨くことは心を磨くことであったことを実感している姿を感じました。

木曾の学校にいた時、トイレの床を一生懸命に雑巾がけをしていた男の子が「おれさ、最近こぼさねえように気をつけてるだよ」「おれもさ」と話していたのが忘れられません。心を磨いている子どもたちがいっぱいってくれることはうれしいことです。

今日は昭和の日。時代は昭和から平成、そして令和へと移り変わってきたわけですが、便器や床を磨くことを通して自分を磨き、成長していく子どもたちの姿は何ら変わっていません。そうした子どもたちと行動をともにし、ともに学び、成長しようとする教師の姿勢も、これは時代がどんなに変わろうとも、変わってはいけないこと、変えてはいけないことだと思います。

後半は、令和を生きる山ノ内町立南小学校の5年生の子どもたちの姿をお伝えします。4年生の3学期から、お掃除の中での気づきや発見を、お掃除終了後に小さなノートに書き留めるようにしました。お掃除の中での気づきや発見には、次の①～③の領域があるように思います。

①汚れている場所への気づき・発見

- ・給食着がかかっている後ろのレールのところがホコリや汚れがすごくついていたから、そうきんが真っ黒になった。真っ黒によごれている部分が真っ白にピッカピカになってうれしかった。(FK児)
- ・今日は床に墨がついているのに気づいたので、そうきんでこすって落とした。(SR児)
- ・テレビが置いてあるたなにチョークの粉がたくさん付着していて、そうきんでふいたら真っ白だったそうきんがとてもよこれた。(YE児)
- ・3年生のトイレの壁をやった。カネヨンをつけて1回こすっただけなのに、タオルが黒くなってやりがいがあると思った。いっしょうけんめいやって、手あかを落とすことができた。壁が終わって、タオルを洗った。水が冷たくて苦労したけど、がまんして洗った。やりがいがあった。(YK児)

②やり方や道具を工夫することへの気づき・発見

- ・二人で同じ事をするよりも、ちがうことを行った方が早く終わったので、明日からもう仕事をして適確に早くできるようにしたいです。(その翌日)今日は掃除が終わってまだ時間があったので、ベランダの掃除をやったら、木の葉やゴミがたくさんあって、全部できなかったので、明日も続きをやりたいです。(YE児)
- ・少し取りかかるのが遅くなってしまって、時間に間に合わなかった。火曜日から時間に間に合わせるために、少し早く掃除にとりかかりたいです。絶対に。重要。(MS児)
- ・今日の教室掃除で、掃除の時間が終わってしまってレールの掃除ができなかったから、明日はちゃんと時間を考えて、掃除を始めたいです。(IA児)
- ・今日はトイレの床をタワシで流して、あまり水を多く流すと、タオルが足りなくなっちゃうから、水をちょっと少なめに流したらうまくいったから、これからも続けたいと思いました。(MY児)

③仲間の姿や取り組みのよさへの気づき・発見

- ・今日はYさんがレールをやってくれたので、来週は自分がやろうと思います。(SK児)
- ・今日、便器の掃除をやって、Sくんはぼくより心をこめてずっときれいにしていてすごいと思った。ぼくもいつもより心をこめただけど、Sくんにはかなわなかったから、今週が終わるまでにSくんをこしたい。(YK児)
- ・今日は私がそうきんをやって、Kくんがほうきをやってくれました。Sくんがそうきんをかけたところがすき間があいていたので、私がうめてあげたらSくんが「ありがとう」と言ってくれて、うれしかったです。(NM児)

先行き不透明な現代社会においては、とかく数値としてすぐに目に見える結果につながらないものは意味がない。価値がない。といった風潮が強まっているように感じます。その影響は、確実に学校現場にも及んできています。でも私は、先行き不透明だからこそ、小さなことや小さな変化を見逃さずに、そこに気づき、それに対応する力をつける必要があるのだと思います。その力は未来を生きる子どもたちはもちろんですが、私たち教師に欠かせない力だと思います。その意味において、お掃除での学びははずせません。古代中国の思想家・晏子の言葉「益はなくても、意味はある」。新年度のスタートに、この言葉の意味を改めてかみしめたいと思います。

2 お知らせ

- 小布施掃除に学ぶ会・月例会→毎月第2火曜朝6時～8時30分(5:45にはご集合ください)
- 春蘭の宿木テルさかえや・渋温泉掃除に学ぶ会→毎月第4火曜朝6時～ 山ノ内町立南小学校
どちらの会も今は活動を休止しています。皆さまとまた会える日を、楽しみにしています!

- 第13回長野県中学校清掃サミット→令和3年7月(開催期日未定です。決まりましたら、お知らせいたします)

残念ですが、今年度は開催を見送ります。来年度、2年分の思いを込めて開催したいと思います。

長野の学校は6日に再開しましたが、また翌週から休校になってしまいました。これまで経験したことのない状況に、先が見通せない不安や戸惑いがありますが、阪神・淡路大震災をきっかけに日本に災害ボランティアが定着したように、今回の新型コロナがきっかけで今までの働き方が変わるなど、今は新しい世の中になっていくための生みの苦しみの時間なのかもしれません。「禍転じて福と為す」という言葉があります。渦中にいる間はなかなかそう思えないのですが、今の状況をただ嘆くのではなく、この状況の意味や価値を前向きに受け止め、福に転じることができるよう行動したいです。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(山ノ内町立南小学校教諭)

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>